

☀️ 新型コロナウイルス感染症定期予防接種のお知らせ

(非課税世帯・生活保護の方)

台東区

【対象となる方】

① 満65歳以上の方

② 満60歳以上65歳未満の心臓・腎臓・呼吸器障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害で身体障害者手帳1級の方

※インフルエンザ予防接種の対象者と同じです。

※①は65歳、②は60歳になってからこの予診票を使ってください。

※ご本人が接種を希望する場合に限り、接種を行います。

【接種場所】

別紙の「令和6年度台東区高齢者インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症予防接種実施協力医療機関一覧」掲載の医療機関

- ・医療機関によっては、予約が必要な場合もあります。必ず事前に確認してください。
- ・23区内の協力医療機関でも受けられます。ご希望の方は、各区の保健所か接種する医療機関に直接お問合せください。

【接種費用】 無料 (自己負担なし)

- ・世帯全員が非課税の方、生活保護受給中の方の接種費用は無料です。

※無料で接種できるのは1回のみです。2回目の接種を行う場合は、全額自己負担となります。

【接種期間】 令和6年10月1日から令和7年3月31日まで

【新型コロナウイルス感染症とは】

感染した人が咳やくしゃみ、会話をする時などに発生する飛沫(しぶき)の中に含まれるウイルスを、吸い込むことによって感染します。また、ウイルスが付着した手で、自分の鼻や口、目を触ることによっても感染します。症状は、発熱や咳、のどの痛み、鼻水や全身のだるさ、頭痛等で、約8割の方は軽症で治ります。その一方で、高齢者や心臓や呼吸器等に持病がある方では、重症化リスクが高いことが分かっており、重症化すると入院治療が必要となり死亡する場合があります。

【効果】

新型コロナウイルス感染症にかかった場合の、入院や死亡等の重症化を予防する効果が認められています。

【副反応】

予防接種を受けた後、注射した部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがありますが、通常2～3日で治ります。まれに起こる重大な副反応として、アナフィラキシーがあります。アナフィラキシーが起きたときは、医療機関ですぐに治療を行うことになります。また、mRNAワクチンでは頻度としてはごく稀ですが、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に、胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら、すぐに医療機関を受診してください。

(裏面へ)

【接種前の注意】

新型コロナウイルス感染症について効果や副反応のリスクをよく理解した上で接種をするか判断してください。気にかかることや分からないことがあれば、接種を受ける前に担当の医師にお尋ねください。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大事な情報です。接種を受ける方がご自身で記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。(体温は医療機関で接種前に測ります。)

接種後に副反応が出たときのために、接種当日や翌日に無理をしないですむように、事前に予定を立てておくといでしょう。

【ワクチンの同時接種】

新型コロナワクチンと他のワクチン（インフルエンザワクチンや高齢者肺炎球菌等）との同時接種は、医師が特に必要と認めた場合に実施できます。また、他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。

【予防接種を受けられない人】

- (1) 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- (2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- (3) ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症を起こしたことのある人
- (4) その他、医師が不適切な状態と判断した場合

【主治医に相談しなくてはならない人】

- (1) 過去に免疫不全と診断されている人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- (2) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気などで治療を受けている人
- (3) 以前、予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギー症状と思われる異常がみられた人
- (4) 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことのある人
- (5) ワクチンに含まれる成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある人
- (6) 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または、凝固障害のある方

【接種後の注意】

- (1) 接種後30分位は、アナフィラキシーなど急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
- (2) 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすらないようにしましょう。
- (3) 接種当日は、激しい運動や過度の飲酒は避けましょう。
- (4) 頻度としてはごく稀ですが、ワクチン接種後4日程度の間、胸の痛みや息切れ等の症状が見られた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

【健康被害救済制度について】

この予防接種による副反応により、生活に支障が出るような障害を残すなど健康被害が生じた場合、予防接種法に基づく救済を受けることができます。(国が認定した場合に限ります。)

【感染予防について】

ワクチンには重症化予防効果がありますが、感染そのものを防ぐためには、換気や手洗いの励行が必須です。また、発熱などの体調不良が見られたら早めに受診すること、無理をしないで体を休めることも大切です。